

令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）関係事業の検証・評価結果

No	交付対象事業の名称	交付金の種類	交付金実績額	本事業におけるKPI(重要業績評価指標)				自己評価		外部有識者からの評価		次年度以降の取組等	
				指標	事業開始前	実績値	令和5年度KPI	事業の評価	担当課自己評価	事業の評価	外部有識者からの意見		
1	文化観光の推進とアーティスト・クリエイター移住・定住計画	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	19,048,000円	指標①	アーティストやクリエイターの移住に関する相談件数	- 件	5件	60件	基本目標を達成するために、効果があつた。	指標①、指標②については目標値を下回りましたが、前年度実績値と比べると指標①については5件増加の29件、指標②については14件増加の30件ということで、引き続き数値が増加するよう取り組んでいきたい。 指標③については、目標を達成することができました。(R2:参加人数27,265名(来場者数:4,924名、オンライン参加者数:22,341名)(R3:参加人数25,576名(来場者数:10,970名、オンライン参加者数:14,606名)(R4:参加人数15,542名(来場者数:10,966名、オンライン参加者数:4,576名)(R5:参加人数18,650名(来場者数:13,058名、オンライン参加者数:5,592名)指標④については、目標を達成することができました。今後も引き続き件数が増加するよう取り組んでいきたい。	基本目標を達成するために、効果があつた。	・アーティストの方より、仕事がなくアートだけで生計を立てるのが難しい、何かしらアートを軸とした仕事がないと移住しづらい、という意見も聞いている。B-biz LINKなりと連携してアーティストのマッチングや、地元アーティストを使った仕事の創生を検討していただきたい。別府在住アーティストのPRにもつながると考える。 ・重要業績評価指数について、何が悪かったのか、何を求められているのか、もう少し踏み込んだ整理が必要。その理由を一つずつ解決していけば、移住者も増えるのではないかと思う。	令和6年度以降も、情報発信拠点「TRANSIT」において、世界中の人々に文化芸術のまちとして別府市を認識させるための芸術文化情報発信事業を継続して実施する。 市制100周年記念の市民参加型のイベントを開催し、イベント等を市内外へ周知するための、看板・チラシのぼり・ポスター・ステッカー等の制作・設置、SNS・Web発信を実施する。 令和6年度は、アーティスト・クリエイターによる別府の魅力発信活動事業を実施する。 令和6年度に、アーティスト・クリエイター創作等施設設置補助事業を実施し、アーティスト・クリエイターの関係人口や移住を促進するための環境整備を実施する。
				指標②	アーティストやクリエイターの移住者数	120人	14人	30人					
				指標③	ベップ・アート・マンズの参加者数	27,265人	3,108人	3,000人					
				指標④	アーティストやクリエイターと協働して生まれた新規商品・サービス件数	- 件	20件	10件					
2	持続可能な温泉観光都市への挑戦	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	17,858,870円	指標①	宿泊客の平均宿泊数	1.09泊	1.107泊	1.110泊	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	基本目標を達成するために、相当程度効果があつた。	・京都ではオーバーツーリズムがかなり深刻な問題となっている。海外の方の長期滞在も一つの戦略と思うが、国内からの長期滞在客を巻き入れることが非常に重要。 ・別府は移動手段が悪く、なかなか外に出ていけない。社会に出ない方が認知症になったり体を悪くしたりというデータが上がっているのので、できるだけ外に出す手段を考えていただきたい。クルーズ船についても、移動手段が本当にない、タクシーが拾えない、という意見を聞いているので、別府のタクシーだけでなくどうにもならない時には、応援を求めらるなどして、観光客の方にはできるだけ別府観光をしていただきたい。	昨年度の取組を継続しつつ、各事業の向上を目指し取り組む。 また、引き続き温泉が与える好影響についての研究を深めるとともに、ウェルネスツーリズムとしてのブランディングを図る。 食×観光事業では、イベント等に参加した農業者や事業者の意見を反映しつつ継続して事業に取り組み、生産物の高付加価値化による生産者の所得向上につなげていきたい。	
				指標②	別府・大分バリアフリーツアーセンターにおけるバリアフリーツアー相談件数	32件	124件	144件					
				指標③	別府市観光ウェブサイトアクセス数	1,058,864 PV	2,318,935 PV	1,270,637 PV					
				指標④	ウェルネスツーリズム関連旅行商品の商品化数	- 件	1件	1件					
3	持続可能な地域を目指す中規模多機能自治区形成事業	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	11,521,485円	指標①	ひとまもり・まちまもり協議会交流事業参加者数	1,700人	7,487人	933人	基本目標を達成するために、非常に効果的であつた。	基本目標を達成するために、効果があつた。	・大学生など若い方に地域活動に参画してもらえるような組織づくりをもっとやるべきではないか。地域と深いつながりができないから都会に出て行ってしまふこともあるのでは。別府では昼間人口で約9000人、20歳前後の方がいる。市政の中でもっと活用すべきと思っているので、今後連携しながらぜひ協力できるところはしていきたい。 ・大学生については、学内で授業をやるよりは、街に出て何か課題を見つけて解決したいという意識を持っていると思う。大学生を活用するといったことで、何か別府らしい事業ができればと思う。 ・KPIに關し、地域の担い手の育成事業について、地域の担い手を育成している目的に対してのKPIならば、例えば大学生などターゲットによって変わってくると思う。質的な部分で地域に残りたい人が動機として増えたという設定が増えれば、この目的に対するKPIとして合っているのではないかと。今のKPIの部分だけ見ると、全体的なところに絞られてしまつて本当に担い手が育成できているのか、指標としてそぐわないような気もするので、その検討ができればよいのではないかと。 ・数値化で人のつながりを測るのは難しいと思うが、全国的にも自治会の加入率がかなり低いと言われており、例えば自治会の加入率をKPIに設定し、どのぐらい加わったとか、細かい内訳で20代が増えた、など設定されると、数値化しやすいのではないかと。	[1]地域の担い手育成事業 地域の担い手を育成するため研修会や交流会、コーディネーターの配置 [2]ひとまもり・まちまもり事業 ひとまもり・まちまもり協議会が地域課題解決のための取組を実施 [3]コミュニティビジネス事業 モデルとなる拠点における温泉熱を利用した地域独特の調理法(地獄蒸し)、地元食の提供や外国人留学生の多くが居住する地域の特性をいかした多国籍ガイドや地元住民による地域の路地裏散策などの観光案内・交流事業	
				指標②	ひとまもり・まちまもり協議会交流事業実施数	10事業	34事業	6事業					
				指標③	移住に関する相談件数	254件	394件	76件					
				指標④	BEPPUサポーターズのメンバー数(増加値)	- 人	47人	50人					
4	別府の食～給食×農業×観光～高付加価値化推進事業	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	3,837,350円	指標①	農林水産業の担い手の確保数	36人	24人	37人	基本目標を達成するために、効果があつた。	基本目標を達成するために、効果があつた。	・若い人の農業に対するイメージは、あまり儲からないというイメージがある。別府産の農産物の消費額・生産額が上がったという事例があれば、儲かる別府に進化している証拠となる。そこも踏まえて強調できたら、APUはじめ大学生などにも農業という選択肢が増えてくるのではないかと。 ・別府産の農産物を別府で加工してお土産品にするなど、安定して商品を提供するための施策を進めていただきたい。 ・農業に触れる機会が少ないので、ボランティアを増やしていけたらよいのではないかと。大学でもボランティアの情報があまり入ってこないのので、そういった情報提供の機会を増やし、もっと人手を増やしていけたら良いと思う。	昨年度からさらに事業効果を出せるように、農業者や事業者の反応や評価を確認しながら継続して取り組む。 また、学校給食においても、引き続き生産者と連携し、地産地消を推進していく。	
				指標②	学校給食児童生徒1人あたりの1日の残菜量(%)	40g/1日・人	- g/1日・人	33.5g/1日・人					
				指標③	観光消費額	86,555百万円	92,525百万円	89,440百万円					
				指標④	農林水産物の特産品化数	5件	10件	6件					
5	新湯治・ウェルネスツーリズム事業～「医療・美容・健康」に特化した古く新しい観光のかたち～	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	29,882,215円	指標①	観光消費額	86,555百万円	92,525百万円	88,286百万円	基本目標を達成するために、非常に効果的であつた。	基本目標を達成するために、効果があつた。	◆別府観光高付加価値化事業 本年度は、近年の大規模な小売店舗や宿泊施設の市内開業等に起因する公設市場尾尾利用実態の変化や、市内事業者への影響、ポストコロナを見据えた消費者ニーズの変化を把握するため、流通・消費行動実態調査を行った。 ◆「医療・美容・健康」プログラム事業 民間企業との協働で健康データを取得し健康プログラムを作成し市内全域で実施。産後間もない母親に対して育児不安や疲労解消のためのリゾート産後ケア事業においては、定員の約3倍の応募があつた。 ◆新湯治・ウェルネス別府発信事業 公民連携による新湯治・ウェルネスのプロモーション、情報発信を実施した。 KPI①観光消費額、②平均宿泊者数、③別府市観光ウェブサイトアクセス数について目標値を大きく上回る成果となつた。	・2019年末から比較すると、別府市のじゃらんネット掲載のルーム数は7年で130%増で5,500→7,000ルーム。全国でトップレベルの地方温泉都市になってきている。ただ、外から入ってきている旅館ホテルが多い地域になってきており。旅館組合に入ってもらっているが、オーナーがいらないという状況である。別府市が発展していくことはよいことだが、この辺の部分もしっかりと連携をとってほしい。また、別府に来ているお客様も本当に市内を回遊できているのかという点、正直できていないと思う。ホテルによっては1軒で800ルームあり、全国の1つの温泉地よりもルーム数が多い。その中だけでお客様の行動が完結し、下手したら別府から次の地域へ行かれていくような気もする。そういう部分も含めて、これからのツーリズム事業に取り組んでいかなければならない。	
				指標②	平均宿泊者数	1.09日1人	1.107日1人	1.10日1人					
				指標④	別府市観光ウェブサイトアクセス数	1,111,807 PV	2,318,935 PV	1,270,637 PV					